

多くの方に自分たちの作品を届けたい



3年生 部長
小島夕葵さん

3年生
池田美羽さん

1年生
岩下小夏さん

2年生
浜道亜樹さん

大府東高校文芸部
まんが甲子園出場メンバー

8月6・7日、高校生が漫画日本一を競う全国高等学校漫画選手権大会、通称「まんが甲子園」がオンラインで開催され、大府東高校文芸部が4回目の出場を果たしました。大会は、出題されたテーマに沿った漫画を制限時間内に1枚の紙に描き上げて競うもので、予選のテーマは「アナザーオリンピック」。大府東高校は、鳥獣戯画を柔道、浮世絵をサーフィン・マラソン、土偶を重量挙げと、昔の絵画などをオリピックの競技に見立てた作品を描き、学校にとつて初の決勝進出を決めました。浜道亜樹さんは「初めての決勝進出ということに驚きましたが、うれしきでいっぱいでした」と喜びを振り返ります。評価された点について岩下小夏さんは「昔の絵を競技として見た視点を評価されたのかなと思います。元の絵を見ながら細かいところも忠実に再現しました」と分析します。画力ももちろんのこと、作品の中にいかに多くの情報を詰め込むかがポイントで、小島夕葵さんは「今回の絵には、みんなで出し合った多くのアイデアを掛け合わせて、上手に盛り込むことができました。競技中は常に時間に追われている感覚でしたが、最後までいい雰囲気で作成できたのでよかったです」と話します。決勝は「30度目の正直」というテーマに対し、パスワードを忘れてしまったあるある話を漫画で表現。惜しくも入賞を逃しましたが、それ以上に彼女らの

友情は深まったようです。現在12人のメンバーで活動している文芸部。学校案内パンフレットの表紙や、日本のバイオリン王・鈴木政吉の生涯をまとめた電子紙芝居を制作したり、過去に広報おぶへ漫画を連載したりと学校内外で幅広く活動しています。現在は、校内の階段を利用した階段アートや、SDGsが簡単に分かるストーリー仕立ての絵本などを制作中とのことで、池田美羽さんは「初めてのことをたくさん経験できるので、すごく自分のためになります。自分たちの作品を多くの人に見てもらえる機会が増えることはすごくうれしい」と笑顔を見せます。

3年生にとつては最後の大会。小島さんは後輩に向けて「これからも積極的にいろんなことに挑戦し、楽しみながら幅広く活躍してほしいです」と思いを託します。2年生の浜道さんは「来年もまんが甲子園に出て、全国に自分たちの漫画を発信できたらいいな。チームワークが重要になるので、引き続きみんなで仲良く楽しく活動していきます」と笑顔で話します。仲間とともに、多くの経験を積んだ文芸部。先輩から後輩へ思いをつなぎ、今後もステキな作品を皆さんへ届けます。



▲決勝で熱心にイラストを描き上げる皆さん

cover

東京2020パラリンピックに向けた聖火の採火式を開催。金色のマイギリを使って、金ちゃん音頭広め隊の子どもたちが一生懸命火起こしに挑戦しました。みんなの思いを乗せた聖火は無事東京に届いたことでしょう。

